

二〇二六年度 二月期 入学試験問題

国語国文学専攻（修士課程）

専門科目

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. 試験開始の合図があつたら、解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入してから問題にとりかかること。
3. 解答は指定の解答用紙に記入すること。
5. 試験時間は、9時から11時までである。
6. 試験終了後、答案を回収する。問題冊子は持ち帰ること。

【一】 次の課題について論述しなさい。

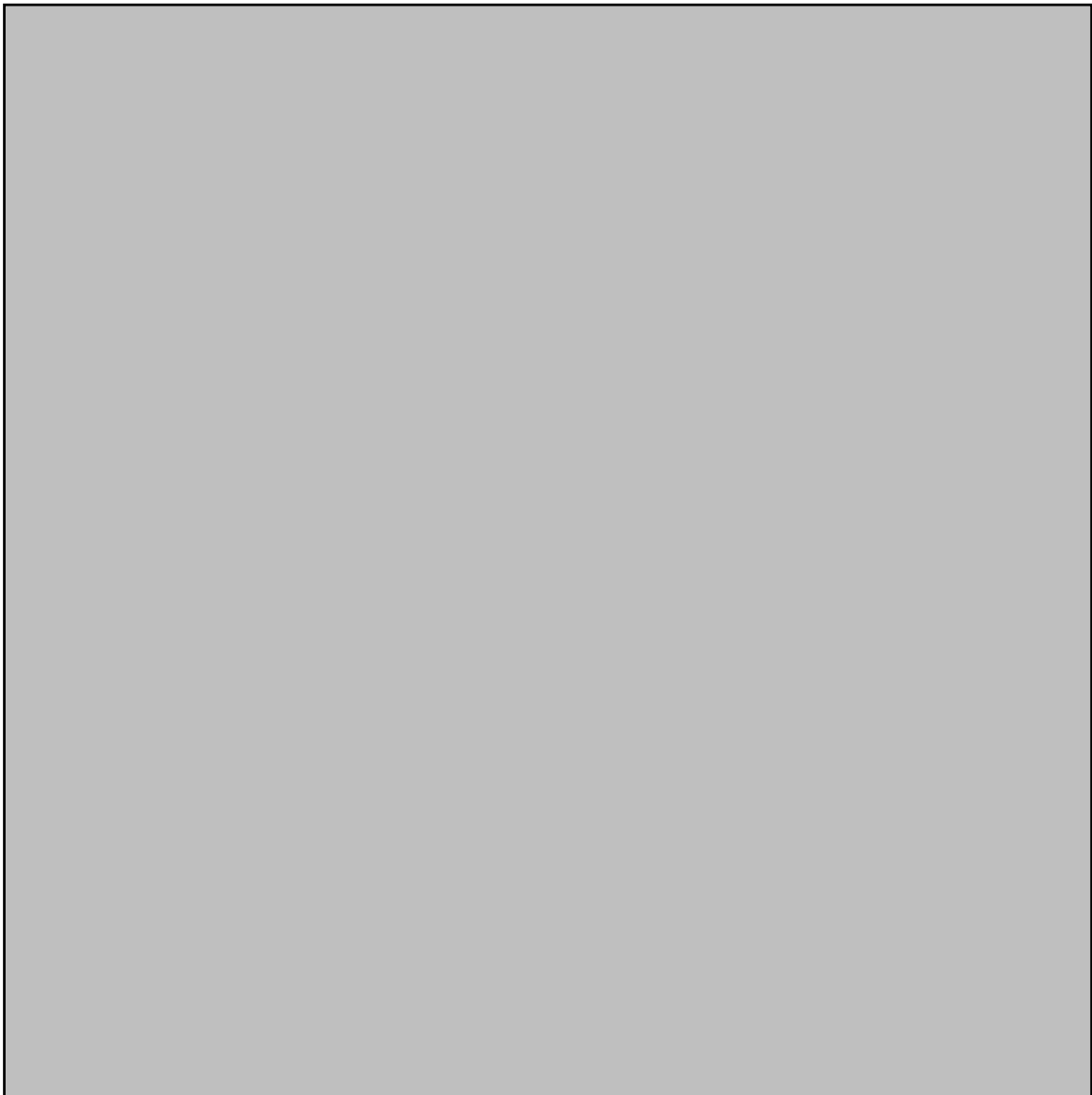
国語学専攻の受験者

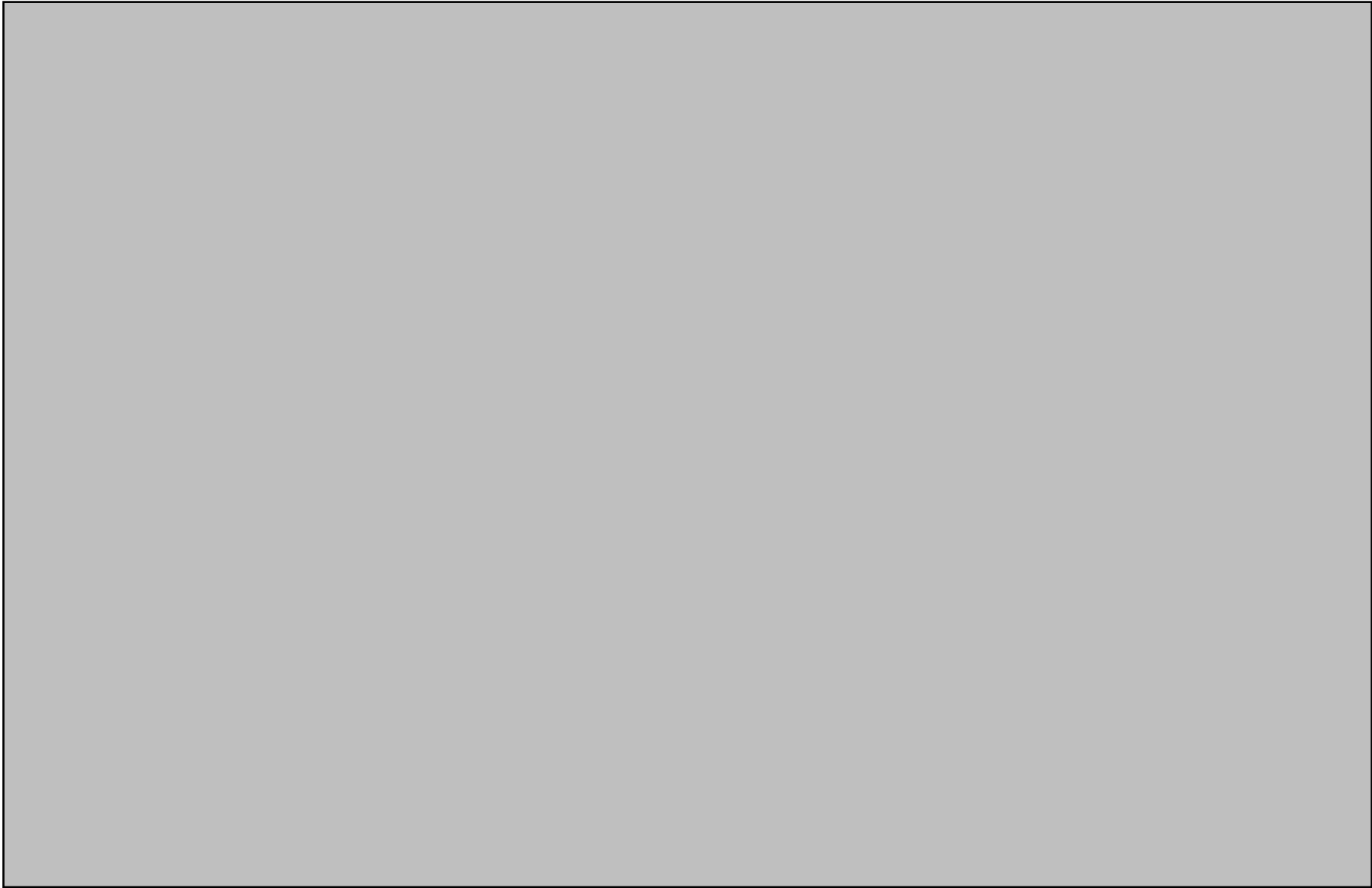
日本語をローマ字で表記することに関して、便利な点と課題になる点とを国語学・日本語学という立場から論じなさい。

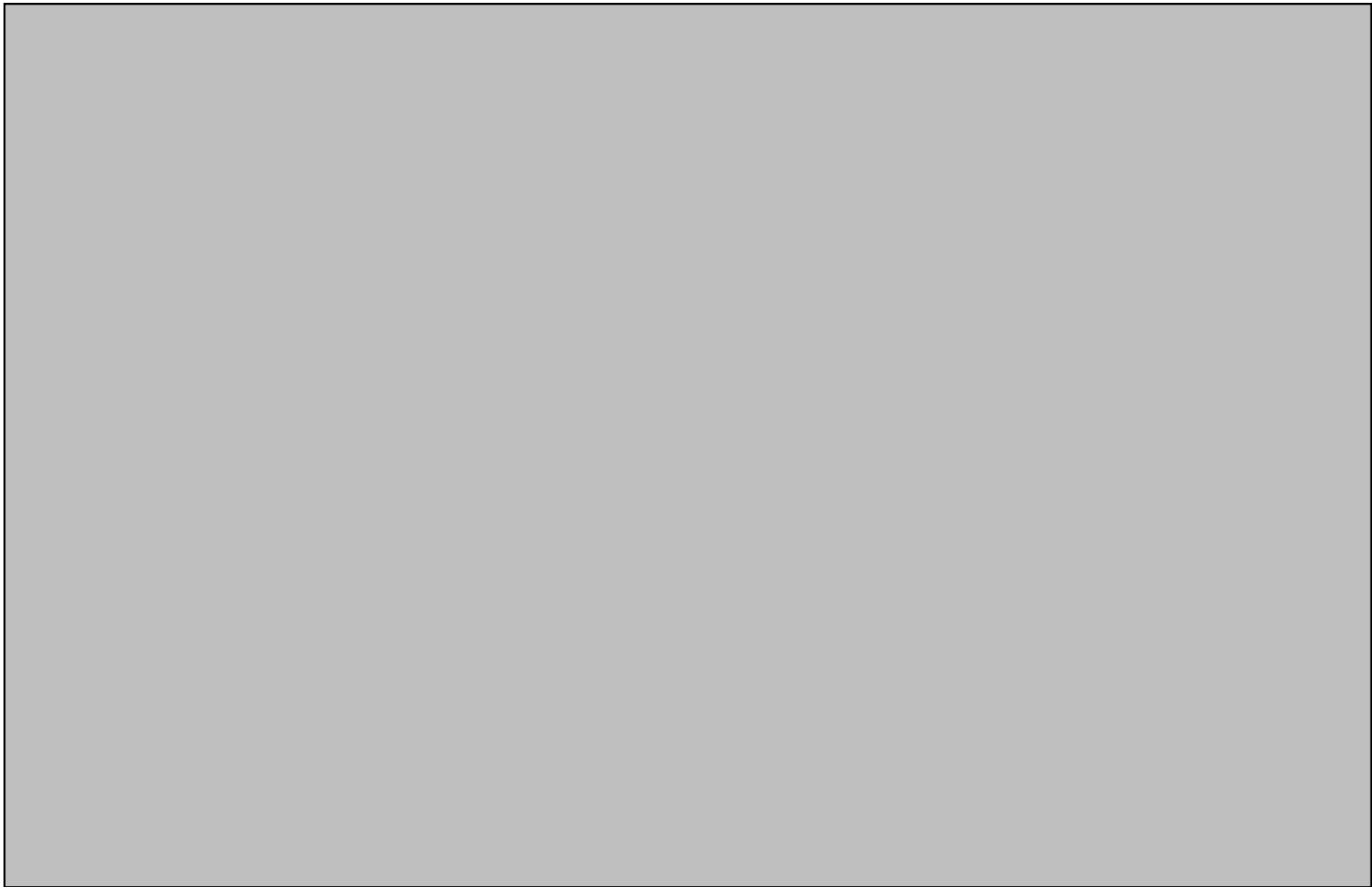
国文学専攻の受験者

日本文学に描かれた「夢」について、具体的な作家や作品を取り上げて論述しなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。







問1 傍線aとdの漢字の読みを記しなさい。

問2 傍線A「私小説は又新しい形で現れて来る」とあるが、筆者である勝又浩はその理由をどのようにとらえているか、わかりやすく説明しなさい。

問3 傍線B「その名文が実は問題である」とあるが、その内容をわかりやすく説明しなさい。

問4 傍線C「岩野泡鳴に「一元描写論」を書かせた」とあるが、筆者である勝又浩は次の点についてどのように考えているか、それぞれわかりやすく説明しなさい。

①「一元描写論」は、日本近代小説の視点と語りについてどのような問題点を指摘したのか。

②「一元描写論」は視点と語りについて新たにどのようなことを唱えたのか。それはどのような点で画期的であるのか。

【三】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

和歌こそ、なほをかしきものなれ。あやしのしづ・山がつのしわざも、言ひ出でつればおもしろく、おそろしき猪のししも、「ふす猪の床」と言へば、やさしくなりぬ。

A「このごろの歌は、一ふしをかしく言ひかなへたりと見ゆるはあれど、古き歌どものやうに、いかにぞや、ことばの外に、あはれに、けしきおぼゆるはなし。貫之が「糸による物ならなくに」と言へるは、古今集の中の歌くづとかや言ひ伝へたれど、今の世の人の詠みぬべきことがらとはみえず。その世の歌には、姿・言葉、このたぐひのみ多し。B「この歌に限りてかく言ひたてられたるも、知りがたし。源氏物語には、「物とはなしに」とぞ書ける。新古今には、「残る松さへ峰にさびしき」といへる歌をぞ言ふなるは、まことに、少しくだけたる姿にもや見ゆらん。されどこの歌も、衆議判の時、よろしきよし沙汰ありて、後にも、ことさらに感じ仰せ下されけるよし、C「家長が日記には書けり。歌の道のみ、いにしへに変わぬなどいふ事もあれど、いさや、今も詠みあへる同じ詞・歌枕も、D「昔の人の詠めるは、さらに同じものにあらず、やすくすなほにして、姿もきよげに、あはれも深く見ゆ。梁塵秘抄の歌曲の言葉こそ、又あはれる事は多かれ。昔の人は、ただ、いかに言ひ捨てたることぐさも、皆いみじく聞こゆるにや。」

『徒然草』による

*糸による物ならなくに——「糸による物ならなくに分れ路の心細くもおもほゆるかな」(古今和歌集・霧旅歌)の歌のこと。

*物とはなしに——『源氏物語』総角に「物とはなしにとか、貫之が、この世ながらの別れをだに心細き筋に引きかけけむ」とあり、『古今集』の原文と異同があることに注目している。

*残る松さへ峰にさびしき——「冬の来て山もあらはに木の葉降り残る松さへ峰にさびしき」(新古今和歌集・冬歌)の歌のこと。

*家長——源家長。後鳥羽上皇に仕え、和歌所の開闢(書記)となつて『新古今和歌集』の編纂に当たつた。

問1 傍線A「このごろの歌」について、兼好はどのように評価しているか、説明しなさい。

問2 傍線B「この歌に限りてかく言ひたてられたるも、知りがたし」とあるが、どういうことか説明しなさい。

問3 傍線C「家長が日記には書けり」とあるが、どの和歌について、ということが家長の日記に書いてあるのか説明しなさい。

問4 傍線D「昔の人の詠めるは、さらに同じものにあらず」を現代語訳しなさい。

【四】 次の中から六つを選び、その記号と項目名を記して、簡潔に説明しなさい。

a	イザナミ	b	防人歌	c	唐風謳歌時代	d	更級日記
e	山家集	f	太平記	g	野ざらし紀行	h	曲亭馬琴
i	我楽多文庫	j	細雪	k	学習ストラテジー	l	特殊拍